

利根川河口堰を通る“魚” ～スズキ～

スズキは、出世魚として知られています。関東では成長するに連れて「セイゴ→フッコ→スズキ」と呼ばれていますが、地方によってその呼び名は様々なようです。北海道南部から九州までの沿岸に分布して、冬は湾口部や河口などで産卵や越冬を行い、春から秋には内湾や河川内で暮らすという回遊魚です。夏になると、豊富なエサをもとめて川をさかのぼります。利根川では、100km以上さかのぼることもあります。成長したスズキは最大で1mを超えることから、釣り人に人気があり、6月から8月になると利根川下流域には多くの釣り人がおとすれます。スズキは洗いや、塩焼きなどの和食のほか、カルパッチョやムニエルなどイタリア料理やフランス料理の食材としてもおなじみの魚です。また、漁場としては内湾が主で、東京湾ではカレイやアナゴと並んで代表的な魚です。ちなみに全国でスズキの漁獲量が一番多いのは千葉県です。



スズキ

水の週間イベントin霞ヶ浦 ～たくさんの子供たちの笑顔～



足水コーナー

8月4日(日)、霞ヶ浦ふれあいランドで「水の週間イベントin霞ヶ浦」を開催しました。今年も船上から霞ヶ浦の巡視ができる「湖上観測体験」や、顕微鏡を使って湖水の中のプランクトンを観察する「水質検査体験」などの水を身近に感じるコーナーに加え、昨年も好評だった「スイカ割り」を実施！子供たちが一生懸命割った大きなスイカは、冷たい地下水を利用した「足水コーナー」で、皆様に美味しく食べていただきました。水とのふれあいを通して、水の大切さや重要性に関心を持っていただくとともに、子供たちも笑顔で楽しめたイベントとなりました。



水質検査体験

河口堰フェスタ2013 ～船上体験人気～



船上体験

好天に恵まれた8月4日(日)、利根川河口堰管理所にて、今年も水の週間(8月1～7日)のイベントとして「河口堰フェスタ2013」を行いました。約150名の方が来場し、船上からの巡視体験や、親水コーナーでの水鉄砲や水風船によるの当てゲーム、普段は見ることのできない河口堰操作室の見学などを通じて、来場者には水の大切さや、水資源の重要性、水機構の仕事について、たいへん関心を持っていただきました。



親水コーナー

編集後記 テレビでも放送されていましたが、今回クローズアップされているスズキは、河口堰の下流付近で釣れるようですね。ただし、利根川大橋の上下流110mは漁業禁止区域となっています。ルールを守って事故に注意して楽しんでください。



利根川下流総合管理所 〒300-0732 茨城県稲敷市上之島3112 TEL0299-79-3311 FAX 0299-79-3316
 利根川河口堰管理所 〒289-0611 千葉県香取郡東庄町新宿2276 TEL0478-86-0477 FAX 0478-86-3457
 玉造管理所 〒311-3512 茨城県行方市玉造甲1234 TEL0299-55-4331 FAX 0299-55-4310

※ご意見、ご質問等ございましたらご遠慮なくお寄せ下さい。(メールアドレス:mizu-tonekaryu@nifty.com)

水の郷から

～水がささえる豊かな社会～ vol.8

2013年(平成25年)9月発行

- 発行所
独立行政法人水資源機構
利根川下流総合管理所
広報誌編集委員会
- メールアドレス
mizu-tonekaryu@nifty.com
- ホームページアドレス
http://www.water.go.jp/
kanto/kasumiga/

本復旧完了後半年、液状化対策を推進



利根川下流総合管理所長 福井正泰 (平成25年4月1日着任)

4月に着任しました水資源機構利根川下流総合管理所長の福井と申します。

利根川下流総合管理所が行っております、霞ヶ浦開発施設及び利根川河口堰の管理につきまして、日頃より地域の皆様、利水者の皆様、関係機関の皆様方にご理解、ご協力を頂き感謝申し上げます。



霞ヶ浦開発湖岸堤復旧完了 (北浦：行方市山田地区)

さて、平成23年3月11日に発生しました「東北地方太平洋沖地震」では、霞ヶ浦及び利根川河口堰周辺でも大きな揺れが記録されました。これにより霞ヶ浦の湖岸堤及び利根川河口堰の護岸に大きな被害が生じました。



利根川河口堰護岸復旧完了 (堰：左岸下流側)

当管理所におきましては、発災直後から被災状況調査、応急対策工事を実施し、その後、本格的な災害復旧工事に着手して被災箇所の復旧に努めてまいりました。

利根川河口堰護岸の災害復旧工事は昨年6月末に、霞ヶ浦の湖岸堤の災害復旧工事は本年3月末に完了することができました。

これも地域の皆様の多大なるご理解ご協力によるものと重ねて感謝申し上げます。

今後は、今回の震災で液状化により大きな被害を受けた霞ヶ浦の湖岸堤において、大規模地震の際、大きな被害とならないための対策として、湖岸堤の液状化対策工事を実施してまいります。



鋼矢板打込

これは、湖岸堤の基礎地盤を狭くするようにして鋼矢板(細長い鉄板)を連続して打ち込み、地盤の流動を抑制して堤防の変状を防止するものです。

また、当管理所では災害復旧工事が完了したことから、今年度より液状化対策工事を計画的に進めるとともに、震災前の通常の管理をしっかりと行ってまいります。

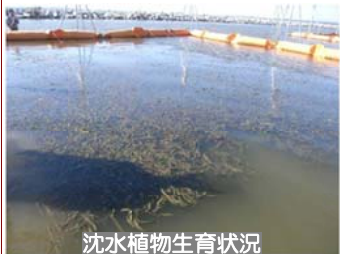


行方市宇崎地区(北浦右岸)の液状化対策工事の状況

『沈水植物復元の取り組み報告』



沈水植物ヤード



沈水植物生育状況

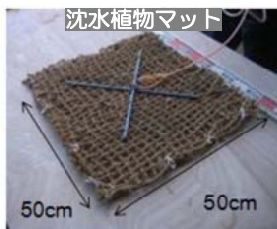
霞ヶ浦には、かつてササハモ、エビモなど水の中で生育する沈水植物が繁茂し、昭和47年（1972年）頃には約750haの沈水植物群落を確認されていましたが、現在ではほとんど見られない状況となっています。沈水植物群落は魚類や底生動物の生息場になるだけでなく一定の水質改善効果も期待できることから、機構では、沈水植物の復元により水環境の改善を図ることを目的として、平成21年度から復元試験に取り組んでいます。平成24年度までの試験結果より、波浪の影響の低減や沈水植物の生育基盤の存在が重要であることが確認されました。

沈水植物の復元に不可欠な生育基盤については、湖底の土質による沈水植物の生育の違いはみられませんが、播種や植栽の方法について試験等を行った結果、

ヤシ繊維の植生マット（2枚）で沈水植物を挟んだ『沈水植物マット』（写真右参照）が生育基盤として有効であることが確認できました。

写真左は、西浦左岸の沈水植物ヤードで、離岸堤より湖岸側の比較的静穏な環境に沈水植物マットを設置して行った復元試験の状況ですが、広範囲で沈水植物の活着が確認できました。

今後はこれまでの試験で得られた知見をもとに、引き続き、水環境の改善に向けて沈水植物の復元に取り組んでいくこととしています。



沈水植物マット



植生マットで挟んだ状態

優良工事等表彰式 ～おめでとうございます～

昨年度完成した工事・業務のなかから特に優れた成績を収め、他の模範となる受注者の方を表彰する「優良工事等表彰式」を7月8日（機構本社）および10日（利根川下流総合管理所）に執り行いました。

表彰となりました受注者の方は以下のとおりです。今後とも機構事業へのご協力をよろしくお願いいたします。

<優良工事表彰>

◎樋口土木株式会社様（茨城県稲敷郡阿見町）；理事長表彰（総合部門）、管理所安全協議会会長表彰（安全部門）

◎株式会社伊東建設様（茨城県鉾田市）；管理所長表彰（総合部門）、管理所安全協議会会長表彰（安全部門）

◎富士通株式会社様（東京都港区）；管理所長表彰（総合部門）

◎高橋建設株式会社様（茨城県行方市）；管理所長表彰（総合部門）、管理所安全協議会会長表彰（安全部門）

<優良業務表彰>

◎株式会社アイ・ディー・イー様（群馬県高崎市）；理事長優良業務表彰

※詳細は当機構本社又は当管理所HPをご覧ください。



理事長表彰式 (機構本社)



総管理所長表彰式 (総合管理所)

ちよっくら散歩 ～美浦村～

ホームページ: <http://www.vill.miho.lg.jp/>

プロフィール

今回は、機構管理の湖岸堤などがある美浦村をご紹介します。美浦村は、霞ヶ浦の西岸に位置し美しい田園風景が広がる湖岸の村です。太古から人々が暮らし、豊かな湖岸文化を育んできました。風光明媚で温暖な自然条件にあり、霞ヶ浦湖畔のすばらしい水辺景観や筑波山の眺望景観にも優れており、水郷筑波国定公園に指定されています。湖岸には自然の砂浜が形成されており、水辺のレジャーを楽しむ家族連れやウィンドサーファーなど季節を問わず多くの人々で賑わいます。



日本考古学の原点



陸平縄文ムラまつりの様子

豊かな自然に恵まれた美浦村には多くの遺跡が残されています。日本考古学の原点として知られ、日本屈指の規模と良好な保存状態を誇る「陸平貝塚」があります。大小8ヶ所の貝塚は縄文時代早期から後期にかけて形成されました。隣接する文化財センターでは、貝塚をはじめ遺跡出土資料を見ることができ、毎年開催される「陸平縄文ムラまつり」（今年は10月6日(日)開催予定)では火おこし、弓矢などの縄文体験や土笛作りなどの体験を通して子供からお年寄りまで家族で楽しみながら歴史に親しむことができます。一お問い合わせは「文化財センターTEL029-886-0291」まで。



双口土器

貝殻

米+サラブレッドのハーモニー



プラド米(上), JRAト(下)

美浦のブランド米「光一点」と「美浦そだち」は、JRA美浦トレーニングセンターの敷きワラ完熟堆肥を利用して栽培(※)する美浦村資源循環型農業で生産されている美味しいお米で、地域づくりでも人馬一体となった連携プレーが行われています。(※「光一点」では、堆肥をマッシュルーム栽培に活用した後に再利用)

イベント紹介

「産業文化フェスティバル」(11月上旬)
「美浦村観光物産展」(12月上旬)

このほか、多くの自然、歴史文化財、イベントなどがある“人と自然が輝く街”「美浦村」に皆様、足を運んでみてはいかがでしょうか。

霞ヶ浦の水質を体験学習 ～小学生177名が参加～

8月6,8,9日の3日間、霞ヶ浦ふれあいランドの水質学習棟で「行方市児童環境科学セミナー」(主催:環境保全行方市民会議、主管:水資源機構利根川下流総合管理所)が開催されました。このセミナーは、未来を担う子供たちが水の大切さや環境保全の重要性を学び、自ら霞ヶ浦の未来について考える総合的な学習の一環として、毎年(平成19年度～)子供たちの夏休みの時期に合わせて行われているものです。今年も行方市内の小学5年生177名が参加し、水質体験学習では、霞ヶ浦の採水、プランクトンの採取と顕微鏡による観察や、ペットボトルを使った泥水ろ過実験などに取り組みました。また、「霞ヶ浦を汚さないためにはどうしたらよいか」というグループ討議による話し合いも行われ、「水」に対する意識も高められました。



顕微鏡で熱心に
見る子供たち